



水武蔵野市 水環境連続講座の学校

News Letter



2014年8月発行
発行元：「水の学校」事務局
tel：0422-60-1867
http://www.city.musashino.lg.jp

facebook「武蔵野 水の学校」
最新情報配信中！

はじめまして！「水の学校」です。

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える7回連続のシリーズ講座です。くらしの中の身近な水循環、上下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。活動の様子や水にまつわる豆知識をニュースレターで発信します。



7/12 (土)「水の学校」開校！橋本淳司さんによる記念講演を行いました。

「水の学校」初日の7/12(土)午前には開校記念講演を実施しました。「世界の水、武蔵野の水」と題し、武蔵野市役所で行われた講演には約80名が集まりました。

冒頭に邑上守正武蔵野市長から、市が取り組む水循環に関わる施策の推進状況や、市民のみなさんと共に武蔵野市の水環境を改めて知り、考える「水の学校」の意義についてお話がありました。

「世界の水、武蔵野の水」

講師の橋本淳司さんは、水ジャーナリスト・アクアコミュニケーターとして国内外の水事情や自治体の水政策を幅広く取材し、多くの著作を発表しておられます。

この日は、一般的に豊富な水資源に恵まれていると考えられている日本でも、目に見えない形でたくさんの水を海外から輸入していることや、それが世界の水危機と密接に関わっていることが、ご自身の体験や身近な事例、クイズを交えて語られ、みなさんお話に引き込まれていました。

中でも、ハンバーガー1個を作るのに、パンを作る小麦や牛を育てるための飼料栽培など、目に見えない形で給水車1台(=約2500ℓ)もの水が使われていることにはビックリ。「間接的に水を使うという意識がこれまでなかった」「世界に水不足が広がっている今、私に出来ることは何?」といった感想があがりました。

都市の水は、「ゆっくり流す」

これまでの都市は、いかに早く雨を排水するかが優先されてきましたが、雨水の浸透・貯留等を進めて「ゆっくり流す」ことで、昨今増加している局所的豪雨の際の洪水防止につながります。また、都市の「保水力」を高めることは、健全な水循環の維持、地下水のかん養*など持続的な水源の確保にも有効です。武蔵野台地を流れる地下水脈を「見える化」した画像には、「本当に生物の血管をみるよう」という声も聞かれ、「水の学校」開校にあたって、見えないけれど欠かせない水について改めて考える機会となりました。

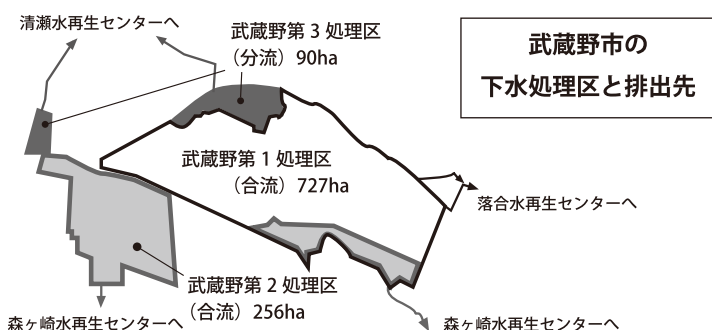
*かん養：地表の水を浸み込ませ、地下水とすること

水コラム no.1: 武蔵野市の下水道

下水道施設がどんどん寿命を迎える！

武蔵野市の下水道は、昭和27(1952)年に、吉祥寺駅周辺をスタートに整備が始まり、昭和62(1987)年には普及率100%を達成しました。しかし、初期に整備された下水道は既に設置から60年が経ち、老朽化が進んでいます。今後20年以内に、市内の下水道の90%が耐用年数を超えると言われてています。

地中に埋設された市内の下水道管の総延長は約253kmにも及ぶため、計画的にメンテナンスを進める必要があります。



下水処理は市外で

武蔵野市内には大きな川がなく、下水の処理は他区市に頼っています。市内で排出される汚水は、東京都が管理する市外の3つの処理施設(落合、森ヶ崎、清瀬の水再生センター)に送られて処理されています。

知ってる? 「合流式」と「分流式」

下水道には、汚水と雨水を一つの管で流す「合流式」とそれぞれ別の管で流す「分流式」があり、武蔵野市の下水道は、およそ90%が合流式です。

合流式は、比較的予算で短期間に整備ができるため、生活の変化に対応して速やかに下水道整備を実現するために採用されましたが、強い降雨のときには、汚水の一部が未処理のまま河川に放流されてしまう欠点があります。

とりわけ、近年では短時間に強い雨が降る回数が増えているため、雨水貯留や浸透を促進することで下水に流れ込む雨を少しでも減少させるなどして、市全体での水循環の健全化をめざしています。

連続講座レポート 第1回「水の学校」とは？～水から見えるわたしたちの暮らし

7/12（土）の午後は、午前に続いて水ジャーナリストの橋本淳司さんをファシリテーターに迎え、連続講座参加者の方との第1回の講座「『水の学校』とは？～水から見えるわたしたちの暮らし」を実施しました。

これから来年1月まで続く全7回の講座に参加してくださる受講生は、27名。10代から80代まで、多彩な顔ぶれが集まりました！

水との関わり、思い出、イメージは？！

プログラムは、お互いを知るところからスタート。受講者とスタッフがグループに分かれ、それぞれの思い出の水辺についてのエピソードを披露しました。そして今住んでいる流域ごとに、グループを作ってみました。玉川上水、千川上水、仙川、神田川…といった具合に、川に見立てたロープに沿って上流から下流へ順に並んでいくと、ご近所同士であることがわかったり、みなさん和気あいあいと楽しんでいました。

水のしずくになって旅へ！

続いて、水のしずくになって循環の旅に出る「みずたび」を体験。体を動かしながら行う参加型のアクティビティで、海・雲・地下水・川・植物・動物・氷山など、地球上の水がある場所をサイコロの目にしたがって移動していきます。

10か所めぐったら、自分なりの旅のストーリーを考え、共有しました。橋本さんからは、水の旅の中に私たち人間の暮らしがどのように関わっているかについて問題提起がなされました。



地球上の水循環を知る「みずたび」
©aqua-sphere & Junji Hashimoto



受講生の声より

- 使う水ばかり気にしていたが、流す水の行く先を深く考えさせられた。
- 水の循環に「自分たちの生活」が入っているのをこれまで認識していなかった。
- 体を動かしながらの水についての勉強が楽しかった。
- 上水だけでなく下水についても考えていこうと思う。
- 「浸水地域」のナゾがとけた。
- 土・海・植物・動物・雲・地下水・氷河など、水が循環している中に自分は生きているのだと思った。



7/27（日）、関連イベント

「関前公園かいぼり」が開催されました！



池の水を抜いて外来種を除去し在来種を保護。

関前公園は、三鷹駅からバスで15分程、グリーンパーク緑地沿いにある、子どもたちが水辺で遊べるようにと作られた公園です。園内には、子どもたちが自由に遊べる「じゃぶじゃぶ池」と、もともと住んでいる在来種を守り育てる「トンボ池」の2つの水辺があります。環境部緑のまち推進課によるトンボ池のかいぼりは今年で19回目。毎年この時期に池の水を抜いて、近隣の子どもたちと一緒に外来生物の除去と在来種の保護を行ってきました。

水の学校チームは「紙芝居」でサポート！

活動の前に、トンボ池の成り立ちやかいぼりの目的、水辺の生き物の種類などについて、市内のNPO法人武蔵野自然塾の方々がレクチャーして下さったのですが、お話だけではイメージしづらいこともあるため、「水の学校」チームで紙芝居を作ってサポートしました。

ルールを守って「水辺の生き物」と親しもう。

トンボやメダカなどのすみかとして設置された「トンボ池」ですが、アメリカザリガニやミシシippアカミミガメ（ミドリガメ）・金魚などを飼いきれず池に放してしまう人がいることで、池の生態系が乱されてしまっています。特にアメリカザリガニやミシシippアカミミガメは、池の小さな魚や水草をみんな食べてしまうので、メダカやモツゴ・ヤゴなどが少なくなってしまいます。そのため、除去の対象になるのですが、外来生物は決して自然にやってきたわけではありません。在来種が豊かに育まれる池にするためには、私たち人間が水辺の生態系を理解し、ルールを守って生き物と接することが、何よりも大切なんです。

参加してくれた子どもたちとは、「メダカのためにもザリガニのためにも飼い始めた生き物は最後まで面倒を見るようにしたいね」と話し、楽しみながらも環境の保全に汗を流しました。

9月の予定

9/6（土）連続講座第3回「見る・知る・ふれる下水道～三鷹市東部水再生センター、小平ふれあい下水道館」